

第4回観光振興推進委員会 会議要旨

日時：平成27年11月19日（木）14時00分～16時00分

場所：メルキュールホテル横須賀 汐入

1. パーソントリップ調査結果について

○鎌倉市との関係からの意見

- (1) 鎌倉で過ごした後に横須賀へ移動するという行動パターンは難しい。現在は金沢区等の近いところからの来訪が多いので、鎌倉から連れてくるというよりも、東京周辺など、より遠方から来訪してもらえるように、範囲を広げてPRしていくようにした方が良い。
- (2) 日帰りだと鎌倉に行って、さらに横須賀に行こうとは思わない。宿泊客に対しては鎌倉と横須賀をつなげて、観光してもらうことはあり得る。
- (3) 鎌倉からのお客様が少ないということは、鎌倉のお客様を頂戴できる絶好のチャンスだと思う。横須賀の強みを生かせれば、きっとこのお客様は確保できるのではないか。そのためには、横須賀を起点に鎌倉へ誘導できるように駐車場の整備と移動手段としての自転車を活用するために自転車道路の整備をし、それらを鎌倉につながる横須賀としてPRしていくべき。

○交通手段の傾向からの意見

- (1) 鎌倉は鉄道での移動が主力になっているので、来るときは東京、横浜からJRで鎌倉へ来て、その後に横須賀へ来て、京浜急行で帰るようなストーリー性のある三浦半島一円で使えるような交通の形態ができればいいと思う。
- (2) 観光列車的なものは考えられないか。京浜急行は羽田空港と直結をしているし、JRは東京や千葉ともつながっているのでアクセス的には非常に魅力的だと思う。
- (3) 東北エリアや伊豆方面では観光列車は運行しているが、三浦半島で観光列車を定期的に運行するとなるとコスト面で厳しい。よこすかYYのりものフェスタ等のイベント等と連動させてスポット的なものであれば相談させてもらえるかもしれない。

○データの取り扱いについて

- (1) 今回の調査は平成20年のデータで、軍港めぐりも運航されていなかったもので、状況はかなり違うと思う。鎌倉から横須賀へ来る方が非常に少ないことは間違いないが、平成20年のデータということを加味して分析した方がいい。

2. 観光立市推進基本計画あらすじ（素案）について

○サブタイトルについて

- (1) サブタイトル、キャッチフレーズは浸透するのに長い時間がかかるものだと思うので、基本計画の中に設定すべきだと思う。横須賀はこういうところなのだとか共有できることが大事。

- (2) 「軍港」という単語は現在の世界情勢を見ると、危ういイメージに感じる。「開国」は平和的でいいのではないか。

○目的について

- (1) 目的が市内、市民に向けて内向きになってしまっている。観光客に向けた目的を入れてバランスを取った方が良い。

○計画策定の背景について

- (1) オリンピック・パラリンピックについては、他市の計画では必ず出てくる要素なので、計画策定の背景で触れた方が良い。
- (2) 国の政策においてもインバウンドを重要視し、外国人観光客数が非常に大きくなっている中では、「インバウンドへの対応」を意識しておくべきではないか。
- (3) 基本計画の方向性が示されているが、分かりやすく短くしているので、過程が分からない。現状と課題が記載されていないので、繋がりが分かりづらい。

○目指す姿について

- (1) 目指す姿では、おもてなしを受ける側と、もてなす方で観光客と市民が連動している方がいいと思う。
- (2) 市民の部分に、女性目線を生かす点が加味されるといいのではないか。
- (3) 市民全員が共有できる横須賀のイメージを示して、自ら PR できるようにすることが大事。
- (4) 例えば、起業が増えるために市がどのような施策を行うのか、増えるための根拠となる施策を示し、それを事業者が実感できると理想的。
- (5) 事業者の部分では、計画の文章を読んだ事業者が、自分が目指す状態と、そのための行政のフォローを実感として感じることでできる実効性のある計画になるようにしたい。
- (6) お客様を迎え入れる姿勢ができているか疑問である。例えば、横須賀芸術劇場には団体バスの乗降場所がなく、道路事情も不便な部分がある。おもてなしの気持ちの面だけでなくハード面の整備でもお客様を迎える意識が必要だと思う。

○基本戦略について

- (1) 艦隊これくしょん等のアニメの影響で、特に若い方に本物志向の高まりがある。本物の軍艦、本物のアメリカ文化等、それらをお土産開発に生かしてはどうか。
- (2) 横須賀市全体ではなくて、米軍関係や開国等の要素で市内をブロックで分けて、組み立てていく方法もあるのではないか。
- (3) 軍港や米軍基地等、そういったものが主体になって計画が策定されているように感じる。一部の地域に特化された形ではなく、横須賀市全体を見られるように意識すべき。

- (4) お金をかけた PR、情報発信ではなく、中高生を含めた若い世代に SNS による発信をしてもらえるような話題や仕掛けづくりをすると効果的だと思う。
- (5) 他都市・他団体との連携については、連携する先方のメリットなど事前に調整が必要である。遠方の友好都市等ではなく近隣で連携をしていこうとする都市とは特に事前に検証や調整をした方がいい。
- (6) 基本戦略について、横須賀らしさを出した方がいい。他団体との連携では姉妹都市や友好都市も大事だが、横須賀と関連する交通事業者や旅行会社、メディア関係との連携も大事ではないか。
- (7) 推進体制になると思うが、「地域内での異分野の連携」が重要である。

○目標設定について

- (1) 国のアクションプログラムでは、観光消費額を 4 兆円にするという目標を設定している。観光客数だけではなく、観光消費額の目標も設定するべきではないか。
- (2) 目標は、その数字の積み上げが必要。

○実施計画について

・ターゲットについて

- (1) 宿泊には繋がらないかもしれないが、金沢区等の近隣から日帰りで来る人を見込むのであれば、ファミリー層をターゲットにするといいと思う。
- (2) 観光客数を追うためには、東京、多摩地区、埼玉、千葉等の巨大マーケットで日帰りが可能な地域をターゲットとして設定し、集中的にプロモーションをかけてはどうか。大きなマーケットで評判が高まると、必ず地方に波及する。
- (3) ターゲットとしては、マニアやおたくと言われる人たちも重要なターゲットになる。安定しておりリピート率も高い。
- (4) 検討したり企画したりするときには、主語をお客様に置く。そういった視点も必要である。
- (5) パーソントリップ調査の男女割合で、横須賀と鎌倉は逆の結果になっており、横須賀は男性が多い。今は女性が旅行の行き先を決めることが多いので、女性にアピールすることは非常に重要である。

・進捗管理について

- (1) 進捗管理では結果だけを基に、定例的に委員会を開催するだけでは、課題の把握は難しい。誰が、いつまでに何をどこまでやるのかということ盛り込む必要がある。事務局での問題点の把握等の分析に活用できる。

・具体的な事業について

- (1) 体験型の観光を盛り込んでいくべきと思う。
- (2) 都内では外国人が増えて、バスが駐車できない問題が出ている。この基本計画の中でもバスの駐車場についてはポイントになる。